

第7回 ニッケピュアハート エッセー大賞

<高校の部 佳作>

「先輩達の思いを胸に」

國政遼太郎

僕には忘れられない瞬間があります。その瞬間はこれから先の人生、絶対に忘れることはないでしょう。

僕は小学校から野球をしています。この松山北高校でも野球部に所属していて、もう一年と三ヶ月ほど経ちました。現在、大学生の先輩とはあまり関りがなく遠い存在でしたが、一つ上の先輩は僕の人生にとって、とても大きな存在でした。キツイ練習や試合での失敗で落ち込んでいる時、頼りになったのは、いつも先輩でした。

僕が二年生になると、三年生にとっての最後の夏が近づき、練習などにもより勢いが出てきます。一日一日と減っていく三年生との時間。本当に時が経つのが早いと感じた三ヶ月でした。そんな時、僕はケガをしてしまい、参加できない練習も出てきました。しかし、自分なりに先輩達のためにできることを全力で見つけ、実行しました。三年生にとって本当に役に立ったかどうかは分からないけど、一生懸命やりました。

そして、いよいよ夏が始まりました。でもそれは、あまりにも早く終わりました。一回戦で負けてしまったのです。僕は最後の瞬間を向かえた時、先輩との思い出が一気に頭の中に浮かびました。冬場、誰もいないグラウンドでたった二人で行った朝練、ポジション変更のことで悩み、相談したこと、食事に一緒に行ったこと、全部かけがえない宝物です。最後の瞬間が終わると、涙が自然に溢れてきました。しかし、先輩は、

「お前が泣くなや。あと一年あるやろが。」と言って肩をたたいて去りました。それは僕にとって決意の瞬間にもなりました。絶対に負けない、絶対に甲子園に行く。先輩達が果たせなかった夢を必ず実現したいと思います。最後の瞬間に笑ってられるように、残りの時間を大切にして日々の練習に取り組みたいです。

忘れられない瞬間のために。